

トレッキングの思い出

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン

理事長 マナダール マダーブ ナラエン

ネパールは山国で、国の北側一面にはヒマラヤ山脈が連なる。エベレスト山を筆頭にマナスル、アンナプルナ、ダウラギリ山等々、世界中の登山家が目指す多くの山々を有する。毎年、多くのトレッキング愛好家や登山家たちが訪れる。

ネパールにいた頃は経験のないトレッキングを、日本に住み始めてから初めて経験した。一般のネパール人は山歩きは楽しむためのトレッキングではなくティルタ（聖地）巡りで歩く。思い出深い一つにアンナプルナ山方面のゴラパニまでトレッキングした時のものがある。

もう 20 年以上も前の 3 月、日本往復のトレッキングツアーに参加した。これは毎年、玉川女子短大の卒業旅行の一貫として、小澤先生が行っていた行事の一つで、この年は 30 名程の学生の参加があった。毎回ネパール通の旅行代理店アドベンチャーロードの前谷さんがツアーを組んで同行するので安心だった。参加者の中には学生 OB やリピーターもいて、すごく楽しい旅行になった記憶がある。

当時はタイのバンコク経由でネパール入りするツアーが多く、バンコクで一泊した。カトマンズ到着後はそれぞれ市内観光に行き、私は実家に帰り、翌日は全員でポカラへ飛んだ。到着後ジープに分乗し、フェディ（登山口となっている川辺）まで行きトレッキングを開始した。

トレッキングはポカラから往復 5 日間、

一日 8 時間くらい歩く。生活は全部サーダー（隊長）任せでテント暮らしだ。ガイドとポーターで 8 名いたと思う。彼らの役割はそれぞれ違う。小トレッキングの場合、サーダーはガイドを兼ねていることが多い。登山ガイドは勿論のこと、ポーターの管理、休憩や食事そして滞在する場所探しやテント張りの用意をする。サーダーはトレッキング中の全責任を負う。参加者にとって楽しい思い出になるよう、休憩中や宿泊場所（テント）で小さなイベント（キャンプファイヤー、歌や踊り、誕生日の人がいたらケーキの用意）を行ってくれる。しかし本格的な雪山登山の場合はサーダーとガイドそれぞれ就き、役割分担される。

そしてポーターは一人 60kg 前後の荷物を運ぶ。トレッキング参加者の荷物、テントや食料品等だ。それ以外にトレッカーが休憩場所に着くまでに、先に到着し、すぐ寛げるようミルクティーやおやつを用意をする。この大名旅行のような待遇は初めて経験するものだった。

北に向かう道程は山あり谷ありで、起伏に富んだものだった。段々畑を見ながら石段を歩き、時間の経過も忘れるほどだった。遠くに目をやると雲海の下にポカラ盆地が見えた。ベストシーズンの山歩きは、途中シャクナゲの森や道端の高山植物の可憐な花々に感動し、歩き疲れて休憩する時、ポーターが用意してくれ

た甘いミルクティーを味わい何とも言えない安らぎを感じた。今でも懐かしく思い出す。



シャクナゲ群から見えるアンナプルナ山

このアンナプルナ方面のルートは数多くあるが、その時は3,000mを超えない初心者向けであった。ガイドは高山病の薬‘Diamox’を用意していたが、参加者は一人も飲むことなく済んだ。この季節の朝晩は多少冷え込むが日の出と共に暖かさを感じ、歩き始めると半袖でもいらいポカポカとしてくる。日によっては汗かき歩きすることにもなる。シャクナゲ（ネパールの国花）の森を歩き、小さな集落を通り抜け、山の民の生活を垣間見て“ナマステ”と挨拶を交わし歩く2,000m地点は本当に楽しかった。山一つ越えて8,000m級のヒマラヤ山脈（アンナプルナ8,091m、ダウラギリ8,167mなど）が綺麗に見えてくると感動そのものだった。雄大な景色に言葉も忘れ立ちつくす私の背後から肩をポンと叩かれ、前谷さんが「あなたの国だよ。」と言った。胸が熱くなったのを昨日のことのように思い出す。

夜は満点の星空の下で夕食、キャンプファイヤーで歌い踊りお喋り、心地よい

疲れが訪れ、テントの中で寝袋に包まる。朝、日の出と共に刻々と変わる山の景色、ポーターが寝袋の中の私たちに顔を洗うお湯、そしてミルクティーを持って来てくれる。出発に備え朝食はたっぷり取る。



ゴラパニから見える日の出

行きと帰りは別ルートだった。行きはペディー（麓）、ダンプス（1,750m）、ランドゥルック（1,620m）経由でゴラパニ（2,885m）へ向かい、帰りはテケドゥンガ（1,525m）、ウツレリ、ビレチャニ（1,050m）からポカラへ帰るルートだった。ネパールには多くのトレッキングルートがあるが、人気が高いのはエベレストとアンナプルナルートになる。この2ヶ所でトレッキング全体の80%を占めている。その他にムスタン、ドルポ、マナスル、ランタン谷など沢山ある。

この企画は小澤先生が卒業を控えた学生に自然の素晴らしさを体験してもらえよう十数年前から行っていた。また訪問した際、村の学校へも支援を行っており、助け合いの大切さを学生たちに体験させていた。最近ではトレッキングルートに食堂、ゲストハウスが一日歩く間に何軒かはあり、キャラバンを組んでのトレッキングは少なくなっているようだ。